

学科 管理栄養学科	所感
氏名 服部 悟	2022年度に愛知学泉大学の教員となり3年が経過したが、毎年TPを作成することで、自分の教育を見直すことができる貴重な機会を与えてもらっていると感謝している。管理栄養士として必要とされる疾患の疾病概念、成因病態、診断、治療などを理解し、科学的根拠をもって判断できる能力を身につけた学生を育成することを目的として、「内部評価」としては学内のFD評価など、「外部評価」としては管理栄養士国家試験により教育の改善を進めていきたい。

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

1 教育の責任

私は家政学部管理栄養学科の教員として、2024年はオムニバス科目を含めて合計10科目を担当した。

臨床医学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び臨床総合演習は、管理栄養士が、医療・福祉介護をはじめとする様々な分野において、栄養管理を行うために必要とされる、加齢や疾患に伴う変化、診断、治療、代謝などの総論を学ぶ。また、管理栄養士として重要な疾患（栄養障害と代謝疾患、神経・精神疾患、運動器、循環器、呼吸器、内分泌器官、血液等）の疾病概念、成因、病態、診断、治療などを理解し、患者等に説明できることを目指して学修する。

健康運動演習は、本年度から松波先生と2人で担当することになったが、健康の定義、生活習慣病とメタボリックシンドロームの疾病概念、運動中止の判定方法、運動に起因する内科的・外科的障害の概要と予防方法、1次救命処置とファーストエイド、テーピング技法の基本などを学修し、健康運動実践指導者の受験資格の獲得につなげる。

(添付資料1)

卒業研究は、管理栄養士として傷病者に対する栄養の指導を行う上で必要とされる、バイタルサインや体重、血糖値などの生理的なパラメーターの変動と食事や運動などによる影響を読み取る能力を身につけるよう指導する。

その他、国家試験対策の講義、オープンキャンパスへの協力、ボランティア活動に関連する「未来へつなぐアウトリーチ」の活動等に従事した。

科目名	学 科	開講期	受講者数	備考
臨床医学Ⅰ	管理栄養士	2年後期	72人	管理栄養士必修科目
臨床医学Ⅱ	管理栄養士	3年前期	62人	管理栄養士必修科目
臨床医学Ⅲ	管理栄養士	3年後期	61人	管理栄養士必修科目
臨床総合演習	管理栄養士	4年前期	63人	オムニバス
健康運動演習	管理栄養士	2年後期	39人	選択科目
その他 5科目				

<h2>2 教育の理念</h2>
<p>家政学部、管理栄養学科の目標の下、管理栄養士の資格を生かして人々の日常生活を健康面から支援できる人材の育成を目指す。特に、卒業後、管理栄養士の30%が病院などの医療施設系に就職して、傷病者に対する栄養の指導が主な業務となる。そのため、管理栄養士にとって重要な疾患の概念、成因、病態、診断、治療などを理解し、人に分かり易く説明ができる脳力、管理栄養士として科学的根拠に基づいて判断する能力と、日進月歩の医学知識の進歩に対応できる自己学習能力を身につけた学生の育成を目的とする。</p>
<h2>3 教育方法</h2>
<p>授業は教科書に沿った講義を中心に、臨床ガイドラインの変更点等があれば補足しながら、パワーポイントを用いて行った。(添付資料2) 学生の理解を助けるため、スライド資料とサブノート「アウトラインシート」の学習資料を作成して、「グーグル クラスルーム」で配信を行った。(添付資料3)(添付資料4)</p> <p>また、学生に予習・復習の習慣を付けさせるため、事前にPCRシートで予習の課題と国家試験出題問題を配信、次の講義までに提出させて確認した。(添付資料5)</p> <p>加えて、授業中に復習テストを実施して相互採点を行い、補足説明を加えて理解度の確認に役立てた。(添付資料6)</p>
<h2>4 授業改善の活動</h2>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 学期末の授業評価アンケートを活用して、授業の問題点を見直し改善に努める。 2) 学生の予習、復習の時間を増やすため、PCRシートをグーグル クラスルームで配信し、提出を求めている。また、授業内容を整理しやすいように、スライド資料のほか、「アウトラインシート」を作成して授業前に配信するようにした。 3) 健康運動演習は、担当教師が2人体制になったので、一部授業内容を見直し、災害時健康危機管理の項目を追加した。救急救命処置、テーピング技法は専門家の外部講師に依頼し、レポートを提出させた。
<h2>5 学生の授業評価</h2>
<p>2024年度の臨床医学Ⅰ～Ⅲの授業評価は添付資料(添付資料7)の通りである。</p> <p>臨床医学Ⅱ、臨床医学Ⅲでは、他の科目と比較するとまだ平均値が低い項目があるが、全体的に評価の改善がみられた。PCRシートや小テスト、アウトラインシートの配布などが奏功したと思われるので、さらに改善していく。一方、臨床医学Ⅰは前年より評が下がった。臨床医学Ⅰは臨床医学の入り口であり、総論が中心で覚えなければならないことも多い。授業での丁寧な説明、提出物のフィードバックや課題の出し方等を見直して、教材に反映することで、予習・復習など自主学習の支援を図っていく。</p>
<h2>6 学生の学修成果</h2>
<p>臨床医学Ⅱ、Ⅲは、前年より平均点が上がり、S(秀)、A(優)の比率も増え、ほとんどの学生の正答率が向上した。再試験対象者もほとんどが合格圏に到達できた。一方、臨床医学Ⅰは、平均点が上がらず、C評価の者が多かったが、再試験ではほぼ全員が合格圏に到達し、F評価は2名であった。(添付資料7)</p> <p>PCRシートの課題の見直しや復習テストの問題の厳選、アウトラインシートの活用法などについて、全体の成績レベルを上げるよう、さらに改善に努力したい。</p> <p>特に、臨床医学Ⅰについては、臨床医学の用語を視覚的に覚えられるよう図表を使った教材の作成を考えたい。</p>
<h2>7 授業科目に関連した教材開発</h2>
<p>講義用のスライド資料、予習・復習シート(PCRシート)、アウトラインシート(穴埋め式サブノート)、復習小テストを作成した。(添付資料3、添付資料4、添付資料5、添付資料6)</p>
<h2>8 指導力向上のための取り組み</h2>
<p>学内で随時開催されるFD研修会、学園報告討論会に参加して教育改善のための事例報告や課題共有を行うことで様々な知見を得ているほか、毎年開催される臨床医学系の学会の学会誌(特に日本内科学会雑誌など)や学術集会の報告書などに目を通して、講義の質の向上に努めている。</p>

9 今後の目標

管理栄養士にとって重要な疾患の疾病概念、成因、病態、診断、治療などの理解を進めることで、患者の病態への対応や栄養学的な処置において、科学的根拠に基づいて判断する能力と新しい知識・技術への学習能力を身につけさせる。それによって「臨床栄養学」学修の理解に資するとともに、国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」や「応用問題」に対応できる能力を身につける。

10 添付資料

資料1「シラバス」 資料2「講義スライド」 資料3「スライド資料」 資料4「アウトラインシート」
資料5「PCRシート」 資料6「復習テスト」 資料7「授業評価アンケート結果」